

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400426		
法人名	有限会社 朋悠生活研究舎		
事業所名	グループホームあかね(茜)	ユニット名	
所在地	仙台市太白区金剛沢1丁目3番15号		
自己評価作成日	平成 30 年 2 月 6 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 30 年 3 月 2 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「あかね」は交通量のある小学校の通学路に沿った場所にあります。車の往来がある中、入居者様から子どもたちの登校、下校の元気な様子が見え朝夕話題になります。天候が雨や雪の日にはみんなで顔を寄せ合い心配しています。入居者様も私達も子供達から元気をもらっています。私たち職員は平均年齢が高く意欲も旺盛なので人生経験を活かし真心込めた介護を提供しています。入居者様一人ひとりを認め「ゆっくり」と「傾聴」する事をモットーに今の暮らしも継続できるように目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成29年4月に開設したホームは、運営推進会議で地元委員の方から「自分達の地域にこういう施設が来る事は心強い」との歓迎の言葉で受け入れられた。理念は、自分が介護を受ける立場だったらを前提に、職員全員で話し合い作成した。開設に当たっては、町内隣近所への挨拶や町内会への入会等、地域との連携強化に取り組んでいる。入居者も、開設時入居ということで、仲間意識が強く、コミュニケーションが良い。入居者同士のトラブルの際、他の入居者が場を和ませるように歌いだし、最後は、皆で手拍子で終わった事もあった。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームあかね(茜)「ユニット名

」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は他の事業者の写しや母体組織の理念でなく独自に作り上げた理念である。職員間で実践できるように機会を持ち話あっている	開設に合わせて、職員が介護について思いを出し合い作った理念である。「真心を込めて、その人らしい生活と穏やかで楽しい一日を送れるように支援致します」を食堂に貼り、常に意識して活動している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会入会して地元の活動にさんかしている。事業所のイベント・消防訓練に案内出し参加して頂き交流を図っている。	開設時から、地域に受け入れられ、町内会に加入した。町内会からの案内で、ネックレス造りに参加し、入居者自らがグループホームについての説明をした。運営推進会議の委員として町内会長の参加もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かして行けるように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所からの報告とともに参加メンバーから質問・意見・要望を受け双方向的な会議になるよう配慮している。 ・年4回以上開催している。	第1回を7月に開催した。その後、2月までに5回開催し、6回目を3月開催予定である。委員は、地域包括センター職員、町内会長、地域住民代表等で、グループホーム開設歓迎の声が出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者に事業者から相談しながらグループホームを理解・支援をしてもらう様に取り組んでいる。	生活保護の受給に関する手続きの相談や、地域包括センターからの研修計画等の情報がある。入居者に関する困りごと相談で、市の障害高齢課の支援を得た事例もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・日中は鍵をかけない。 ・入居者一人ひとりの外出の傾向をつかみ対応している。 ・近隣の方にも理解を求め声掛けし連絡もられるように努力している。 ・拘束の無いケアの工夫をしている。	帰宅願望の入居者が複数いたが、絶対に「ダメ」という言葉は使わずに、色々と話題を変え話を聞くことに徹した。現在は、全員落ち着いている。不適切な発言には、その場で管理者が指導している。職員が気付いた事例は、メモで提出し勉強会で活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員へ虐待についてのパンフレットを使い勉強会を開催している。日中はOJTを行っている。職員のストレスにならないようアンケートや聞き取りなど行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を計画中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時または改定等の際は利用者家族などの不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族・入居者から意見・提案があった時は職員とともに機会を設けそれらを運営に反映できるようにしている。	利用料金の支払で直接来訪の人が多く、家族との話し合いの機会となっている。どんな些細なことでもいいから知らせて欲しいと伝えている。職員の顔と名前が一致しないので、写真貼付の要望があり、検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と面談の機会を設け運営に関する意見や提案を聞き反映させている。	毎月のミーティングで、意見・要望の確認をしている。日々のケアについては、職員からのアンケート(メモ)に対応している。職員と入居者の関係を深めるために、担当制とした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者管理者は職員個々の努力や実績勤務状況等を把握し各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者管理者は職員一人ひとりの実際と力量を把握して法人内外の研修を受ける機会の計画や働きながらトレーニングしていくことをすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は今後同業者と交流する機会をネットワークづくり勉強会等サービス向上させていく取り組みの計画中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の話を傾聴する時間を多く取り入れている。不安がある時は職員で共有し安心できる対策を考え信頼関係築きを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お話を伺い入居者様に対する思いをしっかりと受け止め不安要望に対し耳を傾けて関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を理解し、グループホーム生活の中に継続して取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事をして頂いたら感謝の言葉を言います。出来ない部分にはさりげなく手伝い、「出来ましたね」と褒め、一緒に喜びあいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時を有効に過ごして頂く(一緒に食事)。写真を見ながら昔の頃の話等を伺う等、家族との絆を大切にしながら本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れない様に支援したいと考えている。	センター方式で、入居者の思いや個性等を把握している。話が好き、散歩が好き、買い物が好き等を把握し、日々のケアに活かしたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂では一人ひとりの関わり合いが出来るように隣席を考え、孤立せず談笑できるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	H29/11月、入居者様身体状態が悪化。主治医や家族との相談の結果、退所となり、同事業者の運営する施設へ移転となる。同月、老衰により亡くなるが、移転の支援や情報の共有などに努めることが出来た。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に直接伺うことで思いを引き出せる様に努めている。また現場スタッフからの情報を得ることで、細かな情報を把握できるように努めている。	アセスメントや、家族来訪時に聞いた本人の思い等を「生活史シート」に記録している。風呂好きな人は、「入浴による血行上昇で気分が良くなる、だから毎日でも入りたい」との思いを持っている事を知り応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の、ご本人やケアマネジャーとの面談や、入所後にもご家族からお話を伺うことで把握するよう努めている。生活史シートあり、記入してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録にて一日の過ごし方心身状態の把握に努めている。朝のミーティング時現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	遠距離在住の場合、ご家族との話し合いの場を設けることは、今後の課題である。現場のスタッフとの話し合いや主治医の指示を反映させながら作成するよう努めている。	モニタリングは、毎月実施している。筋力低下により、歩行困難で入院していた人が退院し、車椅子使用になり筋力の向上が見られ、シャワー浴から浴槽への入浴が可能となった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	分かりやすい記録の方法や、その技術の習得、または記入しやすい用紙のレイアウトは今後の課題だが、記録がモニタリングや計画作成に反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一部サービスの利用は行えている。家族の状況や要望は様々なので一人ひとりのニーズに対応できるように柔軟な支援サービスの多機能化を目指したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に小学校、公園、スーパー等あり、買物や散歩を楽しみながら過ごせる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃の生活においての体調の変化や、本人の不調や痛みの訴え等をしっかり聞き入れ、かかりつけ医に相談報告して情報共有を行っている。	かかりつけ医の受診は、家族対応としている。その際、日常の様子等は別に記録した連絡表を使用している。受診結果は、口頭での報告である。内容によっては介護計画に反映している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で変化や気づきを、同じ事業者が運営する施設の看護師に相談し、介護職に必要な対応の指示を受けて、その後の適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まだ、現在入院された利用者はいないが、入院した場合に備えて情報交換に努め、病院関係者と連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と重度化に向けた話し合いは行っている。地域の関係者と共にチームで支援に取り組みたい。	現体制では、看取りについては考えていない。終末期に向けた指針は、作成していない。重度化した場合は、同法人併設施設の住宅型有料老人ホームを紹介している。	終末期に向けた取り組みで、ホームが出来る事、出来ない事を明確にして文書化し、早い段階で家族に説明し、同意を得るようお願いしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会やミーティングを行っているが、応急手当や初期対応の訓練を行っていないので実践力を身につける為研修等計画中である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民と避難訓練を行い、避難できる方法を話し合っている。近所に避難所となる小学校あり。町内会の災害訓練時に参加を考えている。	平成29年4月の開設以来、11月に消防訓練(消火、通報、避難)を実施した。地域住民の参加もあった。夜間想定避難訓練は行われていない。非常食については、乾パン等のセットと飲料水を7日分準備している。	避難訓練については、夜間想定を含み最低2回の実施と地域住民の参加が求められている。地域の方をお願いする役割の検討と夜間想定訓練の実施をお願いしたい。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	軽々しい言葉がけや、硬すぎる話し方は避け、適度な礼節を持って話しかける様に心がけている。また、訴えは否定せずに傾聴するよう努めている。	同じ声掛けでも、受け止め方は一人ひとり違う事を理解してケアをすることを職員間で共有している。排泄に失敗しがちな人は、大きいパッドを使用し、椅子を濡らして恥をかくことのない様に支援している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの内容や、入浴の誘い等で、強制的なことはせず、必ず「～しましょうか」「～はどうですか」の様に、ご本人の決定を引き出せるように努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、就寝の時間など、なるべく希望に沿って行えるよう努めている。食事の時間熟睡している時など起こさない等。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時は一緒に衣類を選んだり、色の好みに沿った衣類を出す等、努めている。普段着やパジャマの区別がつかない人には必ず声掛けを行い、着の身着のままにならないよう努めている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食の提供や、ホットプレートを使って、皆で作ったり食べたりする等の食事の機会を作っている。準備や片づけの後は、必ずお礼を言って、次回に繋げている。	男性の入居者が多いので、気軽に参加できる料理として、ホットプレートを使用する機会が多い。特に好きなのは、お好み焼きと焼きそばである。男性が女性に取り分けてやるなど、和やかな食事風景となっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー作りに取り組んでいるが、内容の充実はこれからの課題である。食事量や水分量は毎日チェックして、安定した食事量が確保できるよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり声掛けが必要であり口腔ケアを行っているができていないときがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前後、2時間ごとに声掛けを行い、トイレ誘導した時に、失敗しないよう座るところまで誘導する支援を行っている。	入居者は、要支援2から要介護2までの人で、自立状態にあると言える。排泄の自覚がない場合もあることから、定期的な声掛けと一人ひとりの水分摂取量管理で、自立への支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時、15時に水分補給をしっかりと頂く。散歩や掃除を一緒に行っていきながら、利用者様の体調やその日の気分に合わせ風船バレー等の運動しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の強い方には理由を傾聴し、理由に合わせた声掛けを行います(時間をずらすこともあり)。心配なく、気持ちよく入浴して頂くことを目指し個々に沿った支援をしています。	入浴は、週2回以上としている。風邪気味とか咽喉が痛いとかで拒否する人もいる。「足だけでも洗おう」と誘い、浴室では「折角だから湯船に入らない、気持ち良いよ」と、その気になるように声掛けしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人、休息時は音楽を聴いたり、ソファでの居眠り、電気をつけたまま就寝など、その時々状況に応じて安心して気持ちよく眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを準備しており副作用等確認できる。服薬時は名前確認、体調確認、服薬確認につとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご飯支度、掃除、洗濯など、その人その人に合わせ、家庭的な部分を一緒に行っています。一人一人得意な事をやっていただき、散歩や歌などで、皆と気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩に出かける時、利用者様の希望にそって一緒に出かけている。季節に合わせ、行事やドライブを計画してみんなで楽しんでいる。	食材の買い出しの際に声掛けして、希望者は一緒に行くようにしている。買い出しに行けない車椅子の方は、ホームの周りを散歩する時間をつくっている。季節に応じて実施する花見や七夕等の際は、家族との連携を図る良い機会と捉えて取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行った時や、自分の欲しいものを買いたいときにお金の支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に手紙や電話をかけたい、といった希望時には支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が利用者にとって不快にならない様に音、温度・光等常に目を配り、カーテン・テレビ音・エアコン調節に注意をしている。生活感・季節感等の工夫はこれからの課題と考えている。	共用空間には、飾り物や行事の際のスナック写真等も無く、サッパリとした感じとなっている。塗り絵の好きな人が多く、塗り絵に没頭している時間がある。食堂の一角にその作品が貼られている。温湿度については、23～25度、50%を目安としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ではテーブル席やソファー位置を考え、話をしたり、レクリエーションを楽しく出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にある使い慣れたものや好みの物を居心地よく過ごせるように工夫をして活かしていきたい。	開設間もなく、入居者も男性が多いため、居室の環境づくりへの意識が低い。女性の居室は、家族写真や人形等のそれなりの装飾が見られる。家族の来訪の機会を捉え、居室環境の改善を図っていくとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日の生活の中でその人が出来る事やわかる事を理解して掃除や食事の準備に参加して頂いたりわかる事を教えて頂き感謝の気持ちを伝え感謝する。		